

洋書輸入協会会報

VOL. 21
NO. 6

(通巻242号) 昭和62年 6 月

理事会報告

4月27日(月)

(一) 規約改正案

規約改正案および役員選出規定案を決定し、定時総会へ提案することとした。またアンケートに答えた各会員に対する返書を、総務委員会でまとめた意見にもとづいて決定し、発信することとした。

(二) 売上税

Distripres (Zürich) から宮沢喜一大蔵大臣あて輸入書籍に対する売上税課税反対の書状が発信されたことが報告された。

(三) 懇親旅行

本年度は6月12日(金)、13日(土)の両日群馬県水上温泉で開催される旨文化厚生委員長から報告された。

(四) その他

5月13日(水)

(一) 4月分収支計算・予算対比表

総務委員会での検討にもとづく報告が承認された。

(二) 賛助会員から正会員への移行

ゴールデンブック株式会社(千代田区岩本町2-6-2 大和ビル 代表者 芦田 郁 電話 865-9341)から賛助会員より正会員に移行したいとの申し出があり、承認された。

(三) 外国出版社へ対して

Blackwell Scientific Publishers および Nature 誌に対して、前者へはテレックスで後者へは書状でJBIAの立場と意見を伝えたことが報告され、5月28日 Baker & Taylor 社側と話しあいをもつことが決定された。

(四) 定時総会

ひきつづいて開催される定時総会の運営について打ち合せた。

(五) 東京外郵通関協議会

4月15日総会が開催され、小林英一氏(丸善)が会長に留任したことが報告された。

(六) その他

定時総会報告

昭和62年度定時総会は5月13日(水)午後2時から、学生会館(本郷)にて開催された。

正会員101社のうち、出席41社、委任状36社、合計77社にて総会は成立。賛助会員の出席は6社であった。

司会者、栗原氏(洋販)の開会のことばののち、飯泉理事長から大要次のような挨拶があった。

「経済大国としてのわが国が、国際社会へどう貢献するのか、期待と政治的圧力の高まるなかで、厳しい円高と経済摩擦のあおりをうけて企業の体質強化への努力

理事会報告……………1	洋書輸入協会史(20)……………3	おしらせ……………5
定時総会報告……………1	海外ニュース……………5	広 告……………6
書物にかかわる歌(その6)……………2	総代理店ご案内……………5	

は、規模の大小を問わず推進せざるを得ない状況にある。適切な相場に円を安定させるためには内需拡大が必要で、効果的な対策を切望する声が高まり、日米の相互信頼関係が最大の危機に直面していると危惧される。国内政局も国会の会期末をひかえ、焦点となっている税制改革協議機関の設置問題などを協議し、厳しく対立していた売上税法案は、今国会で廃案となることが確定した。ベネチヤ・サミットもやがて開催され、ドル安防止への協調も図られると思うが、本日の総会において、きたんのない討議をつくされるよう切望する。」

ついで理事会報告にうつり、小林理事長代理（丸善）から、急激な円高に対応してのユーザーへの差益還元につき、関係方面に理解を求める努力をしたこと。売上税対策については、通関上の問題を勘案して関係当局に陳情し、また関連業界とも連絡をとったこと。ついで規約改正案の提案に至るまでの経過が述べられた。また昨年8月に開催された国際図書館連盟（IFLA）東京大会より寄付を要請された際は、会員各位のご協力により、合計¥1,190,000をご寄付いただき、IFLA事務局から礼状のあったことが報告された。その他、外国資本のわが国市場への参入に関する諸問題に対処してきたこと、情報伝達の迅速化を図って事務局に事務機を設置したことなど、多事多難であった61年度の報告がなされた。

ついで各委員会報告にうつり、総務（丸善・松井氏）、会報（極東書店・一條氏）、企画渉外（ユサコ・山川氏）、ダイレクトリ（東光堂書店・石内氏）、洋書交換（国際書房・服部氏）、雑誌（日本出版貿易・岸氏）、通関（洋販・栗原氏）、文化厚生（三洋出版貿易・武田氏）、文教（紀伊國屋書店・吉本氏）から、それぞれの一年間の活動について報告があった。

ついで昭和61年度決算報告が松井氏によりなされ、高橋氏（南江堂）、山縣氏（内外交易）の監査報告ののち、拍手で可決、承認された。

ついで丹羽氏（緑書房）から関西支部報告、昭和61年度関西支部決算報告がなされ、いずれも拍手で可決、承認された。

ついで松井氏から、昭和62年度予算案が、丹羽氏から昭和62年度関西支部予算案が提出され、いずれも拍手で可決、承認された。

ついで洋書輸入協会規約改正案が提案され、松井氏より提案理由の説明があり、討論ののち拍手で可決、承認された。

以上の議事が終了したのち、吉本氏が閉会の挨拶にたち「ご多忙のなか、長時間活発にご討議いただきありがたい。上程案件はすべて原案通り可決された。当協会規約も16年振りに改正されたが、これも時代の要請である」と考える。

皆様方すべてが、未曾有の円高に直面されている。経費は円高どころか、益々増えている。150円時代の企業存続には新たなフィロソフィが必要で、新しい酒を盛るために、新しい皮袋（規約）ができた。討論すべきは討論し、決断すべきは決断し、協調すべきは協調し、このアゲンストの時代を乗り切ろうではないか」と述べて総会を閉じた。

午後5時から恒例の懇親パーティにうつり、東光堂書店の石内氏の音頭による乾杯で宴を開き、歓談のひとつきをすごした。

書物にかかわる歌（その6）

モラエスの徳島日記を読み待つねむられぬ夜の早く明くるを 吉井 勇

昭和14年上梓された「天彦」に収められている。ポルトガルの人モラエスは、明治の末から昭和の始めにかけて日本に定住し、その間に「徳島の盆踊り」、「おヨネとコハル」など数多くの作品を発表した。作品の題名となった二人の女性と死別してからは、ながい孤独の生活の後徳島で75歳の生涯を閉じた。

「定本モラエス全集」全5巻が、1969年に集英社から刊行されている。

勇には他にも〈モラエスは阿波の辺土に死ぬるまで日本を恋ひぬかなしきまでに〉があり、並々でない関心の程が偲ばれる。青春の恋の耽溺をおおらかに歌いあげた「酒ほがい」によって有名な作者も、作風そのものには変わりはないが年齢的に沈静した感じが加わっている。「天彦」時代は、土佐の山峡に草庵を作り「溪鬼荘」と名付けて住んでいたが、作者にとっては最も精神的に苦難の日々だったといわれている。

当時の心境と、同じ四国の地というかわりがこの歌を生みだしたのだろう。一連の歌のなかに〈覚め眠り読み書き時に酒に酔ひやがては土佐の土となるべき〉がある。 A. A.

洋書輸入協会史 (20)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

23.5 極東貿易株式会社と海外出版物輸入同業会の関係の始まり。

昭和24年3月12日の同業会理事会の記事に、極東貿易から同業会への入会申し込みがあったと書かれているのが、同業会に同社の名前が出てくる最初のものである。

次は5月25日の理事会記事で、このときは日本出版貿易と高島屋書籍部と極東貿易の三社の入会申し込みが一括して審議されている。その所の記事には、日本出版貿易(注)と極東貿易とは、「今回の工業技術庁による工学書輸入の実務代行をしているため」とあり、高島屋書籍部は「三越、白木屋などがいずれも我々同業会の会員であることを考慮し」と書かれている。

この「工業技術庁による工学書の輸入」とはエロア資金による米国工学書の輸入(JBIA 会報、昭和61年12月号、Vol.20 No.12 所載、協会史(15)の18項参照)のことである。S24の半ばから始まったエロア資金による米国工学関係の書籍の輸入は、結局丸善が一手に取り扱うことになったが、雑誌の方は極東貿易が落し、これを扱っていた模様である。

(注) 前述の日本出版貿易株式会社が「工業技術庁による工学書の輸入……エロア資金による輸入」の雑誌を扱っていたかどうかを調査したが確認出来なかった。日貿「創業三十年の回顧」によれば、同社は昭和24年6月から昭和25年3月までの間に欧文図書雑誌の輸入を開始しているので、恐らく丸善や極東貿易とは全く違った立場から(例えば和書輸出の見返りとしての優先外貨を使用するなどの)、工学書を扱っていたのであろう。

エロア資金による雑誌の輸入実務を極東貿易が代行していた(らしい)ことは、丸善百年史にも石川氏の洋書こぼれ話にも書かれていない。昭和24年5月25日の理事会記事だけである。しかし秋葉氏が昭和25年3月に極東貿易に入社して以来は、エロアの係に配属され、極東貿易宛に送附された工業技術関係の雑誌が山積みになっていた由であるから、極東貿易が何等かの理由で洋書業界が果し得なかったエロア資金による輸入のうちの雑誌の

輸入代行を引き受けていたことは、先ず間違いのないことと思われる。

ちなみに、日本出版貿易株式会社の海外出版物輸入同業会への加入承認はS24.8.1付、極東貿易はS24.10.13付であるが、入会審議が同じ日に行われたこの二社のうち、極東貿易のみが後廻しになっているのは、何等かの問題があったことを暗示している。また極東貿易の入会時の代表者は浜田光作氏、千代田区神田駿河台4-2がその住所である。

23.6 極東貿易株式会社の組織

同社は戦後創立され、社長は元拓務省官吏でかなりの地位までいった中野氏であった。この関係で会社顧問といった形でかなりの著名人を集めており、これが会社の信用を形作っていた。中野氏はこの人集めの他はほとんど仕事をしていない。

同社は実質的には、浜田光作氏と久蔵氏の兄弟及び福島京一氏が経営していたものであり、浜田兄弟の中でも兄は40歳前後で遊び人であり仕事をしない人であつたらしい。浜田弟は当時30歳前後で大変なやり手であつた。中野氏はこれら浜田氏と戦時中に知り合い担ぎ出された模様。浜田氏(兄を指すのか弟を指すのかも)とも判然としない場合が多い。以下も分らないときは浜田氏と表記する)は極めて話がうまかった由である。

会社の中は、当初浜田光作氏が専務で、久蔵氏が取締役兼工品部長であり、図書部長を福島京一氏がやっていた。ある時期に浜田光作氏がやめ、久蔵氏が専務となり、福島京一氏が常務となった模様である。

図書部長は福島氏より田中氏、松原氏と替り、S26半ばになって会社がどうにもならなくなったとき高野氏が部長に任命される。高野氏は北大予科の教授から千葉大学へ移り、S25の春に北大予科時代の教え子であった福島正和氏(京一氏の弟)の縁で極東貿易に迎えられ、最初は調査課長の肩書で著作権関係の仕事をされていたもの。浜田氏の有名人集めの一環であったものであり、同社の経営には無縁の立場であった。

社長の中野氏はやがてやめ、次に吉田善吾氏が就任する。吉田氏はS12に連合艦隊長官を勤めS14に海軍大臣、S15には軍事参議官になった海軍の長老。どのようなついで浜田氏が担ぎ出してきたのかは不明であるが、さすがに吉田氏は暫くの間に何かを感じ取ったのであろう、数ヵ月もしないうちにやめている。

23.7 極東貿易株式会社という名称及び所在地など。

戦後直ちに米国国務省——GHQの指示によって財閥解体の動きが始まるが、1947(S22)7月のGHQの解散指令により、三菱商事は約140の、三井物産は約180の群小会社に分散して、それぞれ激烈に生存競争を開始している。いずれはそれが再び三菱商事(S54.7月)と三井物産に大合同するのであるが、このとき出来た群小会社の中の比較的有力なものの一つに極東貿易という会社があった。しかしこの会社の登録地が都心であったのに対し、このたびのCIEプランによる米国人文科学書の輸入代行に指定された極東貿易は、その定款によると、本店を江東区に置き、ここで社名を登録している。同業会への届けは前述のように神田駿河台であったが、事実同社は倉庫を深川に持っていた。

そして同社はその事務所を丸の内の三菱仲三号館に設け、エロアとガリオアの双方をここで処理し、更に分室を仲五号館に設けている。そして入社試験なども一切をここで行ったので、実際には旧財閥とは何のかかわりもないにもかかわらず、昭和25年3月に入社した秋葉氏始めほとんどの応募者は、何の説明もないままに財閥系の極東貿易株式会社と思いこみ、入社して暫くの間はそうではないということに気付いていない。CIEプランの輸入代行に指定された際に、指定した側にこの誤解がなかったのであれば幸いである。洋書の同業会側も、当初は財閥系と思っていた人が多い。

同社の資本金は18万円、英文名はFAR EASTERN TRADING CO., LTD.であった。

23.8 極東貿易株式会社の仕事ぶり

極東貿易には、S24から25にかけてエロアの雑誌が大量に入荷していた。これはすべて前金であり、クーポン券を発行して毎号を配達していた。そしてその間にどういふ訳か科学技術書が入荷して来る。これはエロアの書籍が丸善一手というところからすると、エロアの書籍とは考えられない。どのようにして入手したのか不可解と

いう他はないが、ともかく当時のことであるから、完全な売手市場であって売れに売れている。恐らくこれで大いに自信をつけて新規のS25年のCIEプラン……ガリオアへと乗り込んだのであろう。

ところが、社内に書籍・雑誌の実務の経験者が当初は2～3人をどこからか連れてきて、エロアの雑誌は何とかけたのであるが、その後は社員の新陳代謝が激しく、社員教育が全くなされていなかった。CIEプランによる輸入の受注が始まっても、最初から注文品が僅かしか入ってこない現象は、注文をどうやって発注したら良いか分らない、どうやって入荷した本を分配したら良いか分らない、入荷した頃には注文者が分らなくなっている、注文と送金とが連動しないなどという無責任事務であった。

従って同業会側がクレームしても、始終担当が替り、返事が遅延し、何一つ解決しないまま日時が過ぎるという状況になってくる。

その上、CIEプランでは極東貿易は元卸であり、小売は出来ないはずであったのに、同社は振鈴社という別会社を利用して直接受注を行っている。

こういうことで、後日極東貿易が整理段階に入り、債権処理のためにその在庫売り立てが行われるのであるが、注文した本はさっぱり渡されていないのに多量の在庫、しかもバックナンバーまでがあるのに驚ろかされることになる。これというのも、一つは注文された本の注文主が分らなくなっていること、一つには受注した本だけでなく思惑輸入を行っていたことなどが原因であろう。

集めた多額の前金は、では一体どうなってしまったのか。これは同社が整理段階に入った後で監督官庁から全社員が追及を受けるのであるが、ついに社員で着服したという者は存在せず、結局人件費と浜田氏などの毎晩の飲み代で費消されたというのが実情であろうか。考えてみれば、CIEプラン20万ドルのうち前金で集まったものは4000万円前後であり、しかも手数料が3～10%で、更に数十人の社員をかかえて、しかも管理体制が皆無の上に飲み廻っていたのでは、あっという間に資金が不足するのは当然のことであろう。放漫経営の見本のようなものである。またそのために、浜田、福島氏などが背任横

領で起訴されるなどのことがなかったのかもしれない。

23.9 CIE プランの経過——昭和26年8月まで

昭和25年4月末から極東貿易において受注を開始したCIEプランによる輸入は、入荷がはかばかしくなく、同業会の中で問題化していたが、11月16日には理事全員で浜田氏と会い説明を聞き、更に12月8日には極東貿易を訪問して発注及び到着状況について浜田専務よりの説明を求めている。このときは、同業会としても出来るだけの手助けを申し出ると共に、極東貿易側はGHQ、通産省と共同して現在までの実情を釈明する文書を発表することを約束している。しかしこれは果されていない。

後から考えると、理事会としてもこの時期に抜本的な対処をすれば良かったのであるが、実業人の常識として前述したような無責任経営には考えが及ばず、浜田専務の巧みな弁舌にごまかされ対策が手遅れになっている。

翌昭和26年に入っても入荷状況は好転せず、得意先…同業会メンバー…極東貿易の間でそれぞれ催促と陳謝のやりとりが続き、更に通産省一同業会、通産省一極東貿易の間でも陳情と督励のやりとりが続いていた。

6月20日三越地下別室で開催した懇談会には、極東貿易より福島氏が来て遅延の状況を説明、これに対し出席者全員の意向として昨年度の発注分で未入荷のものの取消しを申し入れた。これについては極東貿易より通産省へ伺い中であるから、両三日待ってくれとの返事があり、結局は通産省からの返事がないということで延引。

やがて極東貿易相手ではらちが明かずとして、7月9日に理事全員で通産省を訪問し、インボイスが入っているもの以外は全部返金させようということになった。ところがこの旨極東貿易にコンファームすると、同社では承知せず、絶版・品切れなどの返事のあったものに限るとし、7～8月中はこの返金の問題でやりとりが続いている。即ちこのあたりから同業会と監督官庁側は少しでも損害を軽減しようという方向へ切り換わり、極東貿易側は末期的症状を呈してくることになる。

(続く)

海外ニュース

「アーノルド社はホッダーの系列に」

規模はそう大きくないが独立した優良出版社として生きながらえてきた英国のEdward Arnold社は、ついにHodder and Stoughton社に買い取られることになった。

1986年のホッダー社の総売上高は4,500万ポンドで、アーノルド社のそれは800万ポンドであった。いわば大が小を吸収合併した形になり、アーノルド社は今後ホッダー社の教育・学術書部門のひとつとして活動が続けることになった。買収の金額は明らかにされていないが、一昨年来の合併・統合劇の嵐の中で特色ある独立出版社がまたひとつ消えたわけで、大方を淋しがらせている。

(Publishers Weekly、3月27日号より)

—(株)紀伊國屋書店提供—

総代理店ご案内

(株)紀伊國屋書店

☎(03)354-0131

Croom Helm —UK—

An Encyclopedia of Philosophy

by Parkinson, G.H.R. 1987: 12 1 vol.

.....¥14,400

おしらせ

このたび下記の方が、賛助会員から正会員に移行されましたのでお知らせします。

ゴールデンブック株式会社

〒102 東京都千代田区岩本町2-6-2

大和ビル3F

Tel. (03)865-9341/2, 864-0696

Fax. (03)864-5380

科学・技術全分野を解説する世界最高の大百科
五年ぶりの全面改訂、全20巻セットで再登場！

改訂第6版・1987年4月刊行

(略称)
"EST"第6版) **マグロウヒル**
科学技術大百科辞典
McGRAW-HILL ENCYCLOPEDIA
OF
SCIENCE & TECHNOLOGY

6th Edition—20 volumes

ISBN<0-07-079292-5> 判型8½"×11" 1987:04(全巻同時刊行)

在庫・発売中 予約特価¥322,000/正価¥368,000

(McGraw-Hill)—US—

英語版で刊行されている科学・技術分野の総合大百科として、当マグロウヒル科学技術百科は、その編集陣容、収録内容、頁組み、造本等において、類書の追随を許さぬ位置を占めています。

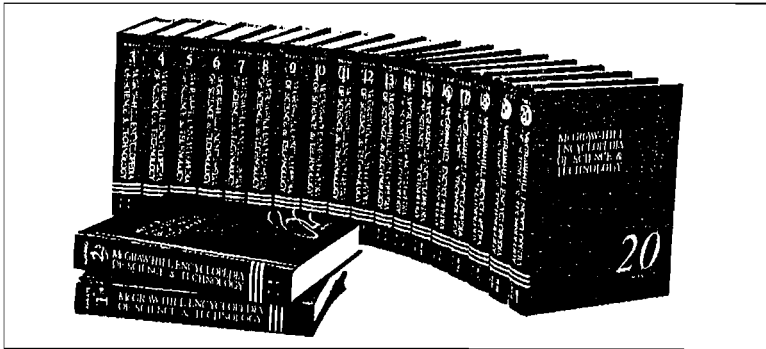
本年、その全面改訂版が、全20巻セットで四月に刊行されました。全ての大学および公共図書館、研究機関、各企業の開発・資料センターにお奨め致します。

改訂第6版の特色

☆第5版(全15巻)を全20巻に拡大 ☆新項目・改訂項目は合計2,000項目

☆新しく挿入、または改訂された図解・図版は合計3,900葉

☆執筆者3,500名、その中には、ノーベル賞受賞者23名が含まれ、署名入りで寄稿



推薦文入・案内進呈



日本総代理店

紀伊國屋書店

お問合せは
(03)439-0161
内線542まで

(新館) 〒156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号 ☎(03)439-0161

昭和62年6月 通巻第242号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室 ☎271-6901 FAX271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329